いばらき駅探訪

社宅併設 妻が駅業務

関東鉄道常総線 中妻駅（常総市）

平日午前7時、柴崎弘美さん(48)が切符売り場を開けて駅の業務を始める。住まいは駅併設の社宅。夫は関東鉄道運転司令室助役だが、自身は正社員ではない。

駅の業務は、代々この社宅に住む社員の家族が務めることになっている。2006年まで別の会社に勤めていた柴崎さんも、08年5月に入居し役割を担うようになった。同鉄道でこの方式は現在、同駅が唯一。隣の三妻駅も10年6月までそうだったが、現在は中断され、無人駅となっている。

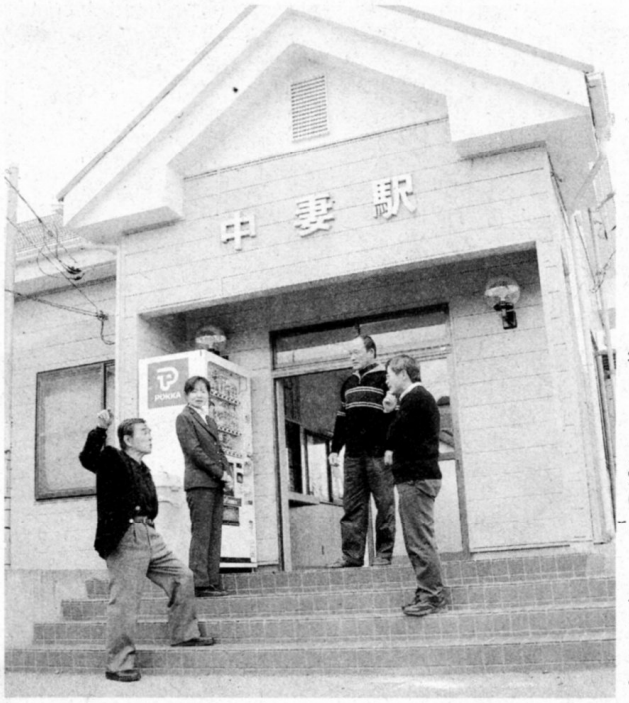
「おはようございます」「行ってらっしゃい」――。乗降客とは互いに笑顔で声を掛け合う。周辺は古くからの田畑と住宅で、客のほとんどが近所の人だ。「お客様の顔は大体分かります。何日かいらっしゃらないと心配になることもあります」。柴崎さんはそう話す。

1974年の茨城国体では、全国のハンドボールチームの多くが中妻駅周辺に民泊した。駅東側の根新田地区自治区長を務める鈴木孝八郎さん(72)は当時、本県少年女子チームの監督。「大勢の選手を運ぶため列車を長くしたのでホームが足りず線路から乗った。あんなに駅がにぎわったのは最初で最後では」と懐かしむ。

同地区で生まれ育った宮川信幸さん(61)は、87年に駅舎で行われた映画「男はつらいよ 寅次郎物語」のロケを見学した。「当時は建て替え前の木造。映画館でそのシーンを見たとき、身近すぎて見過ごしていた趣を感じた」と振り返る。

宮川さんは昨年1月まで、通勤で駅を使った。今月、しばらくぶりに駅を訪れると、柴崎さんは「しばらくですね。お元気でしたか」と笑顔を向けた。

（金成真也）



駅での思い出を語り合う（左から）鈴木さん、柴崎さん、宮川さんら（5日、関東鉄道常総線中妻駅で）

メモ 柴崎さんが駅業務を行うのは平日午前7時～同11時と午後2時半～同5時。それ以外の時間帯と土曜、日曜、祝日は無人駅となる。中妻駅は1920年2月開業。45年3月、筑波鉄道との合併で常総筑波鉄道の駅となる。65年6月、鹿島参宮鉄道との合併で関東鉄道の駅となり現在に至る。木造駅舎から現在の駅舎に建て替えられたのは94年2月。昨年度の1日あたりの乗降客数は274人。

読売新聞 2014.11.14 朝刊 地域(茨城)版